

四月の下旬、母と祖母と私の三人で買い物に出かけた。祖母が自分の畑に植える夏野菜を買うためだ。トマトとナス、とうもろこしも買った。会計をすませて私は何かものたりなさを感じた。この時期は植える野菜が多いので、私も小さい頃からよく手伝っていた。やはり何か足りない。そして私は、ふと思いついた。

「今年はスイカがないよ。ばあちゃん」

スイカが好きな私が尋ねると、祖母は

「ちやんと心配せんでも植えるよ。でも、今年は変わったスイカを植えるつもりなんさ。」

私は「変わったスイカ？」と疑問を持ちながら

「へえー。どんなの？」

とさらに尋ねてみると、

「今年は『黒いスイカ』を植えようと思ってな。おいしいて聞いたもんで。さっきの店で探したんやけど、なかったわ。」

私は頭の中で『黒いスイカ』を想像してみた。そして、もう一度、質問した。

「ばあちゃん。そのスイカはどうやって種を取るの？ そんなん種も食べたりそうやん。」

それを聞いていた母も、

「そのスイカは種なしスイカとか？」

そう尋ねると、祖母は大笑しだした。私も母も目をきよとんとさせていると、祖母が『黒いスイカ』は中身が黒いんとちよて、外側の皮が黒いだけさ。そんな中身が黒いスイカは、この年まで生きてきたけど見たことあらへん。」

と笑いをこらえながら答えた。車の中で三人とも大笑いしながら家へ帰った。

※ 何とも書えない幸せ感のある、あたたかい作品です。母と娘の発想が似ている。とてもほほえましく、三人の笑い声がきこえてくるような気がします。

と、東洋大学の先生からコメントをいただきました。今年度の「現代学生コラム」自由題第1期（七月初め発表）の入選作品になりました！